



k o r y o 陵

雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田尚二丁目2番6号／電話 0178-44-3866／FAX 0178-43-9077
<https://kouryo-high-school.com>／メール kouryo@chibagaku-en.ac.jp

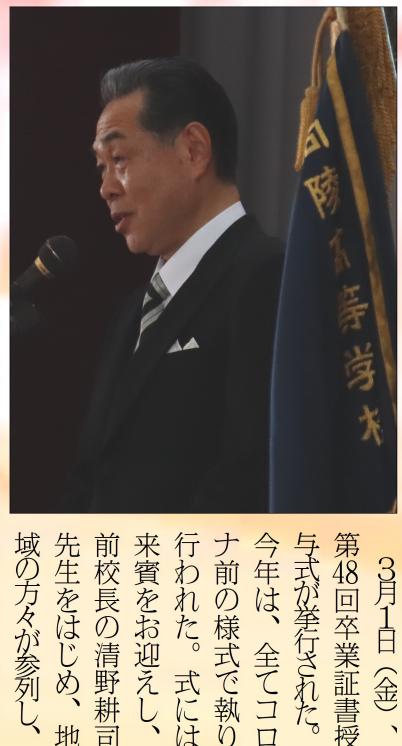


第48回卒業証書授与式

在校生も同席した。昨年、感染症対策のため卒業式に参加できなかった2年生は、「厳かな式に緊張したが、先輩の姿を近くで見ることができ嬉しい」と喜んだ。1年生は、「先輩に届くよう大きな声で校歌を歌った」と話してくれた。就任2年目となる堀内英男校長先生は、一人一人に卒業証書を手渡し、式辞の中で3年生との思い出を語った。コロナゼロで終えることができた修学旅行、雨の中全校応戦をしたサッカーの試合などを振り返り、どれも自身の人生の一コマになつていることを述べ、これからも皆、輝き続けて欲しいと締めくくった。

卒業生代表の石岡真衣さん(3年・小中野中学校出身)は、どんな困難にあっても「本気なら逃げない」とし、最後は自分たちの新たな一步を、自分たちで鼓舞するように「走れ」と澄んだ大きな声で結んだ。

来賓、保護者、在校生らに見守られ、卒業生45名は慣れ親しんだ学び金をあとにした。



3月1日(金)

第48回卒業証書授与式が挙行された。

今年は、全てコロナ前様式で執り行われた。式には来賓をお迎えし、前校長の清野耕司先生をはじめ、地域の方々が参列し、

ナ前様式で執り行われた。式には来賓をお迎えし、前校長の清野耕司先生をはじめ、地

域の方々が参列し、

まだ頗る風が冷たい八戸ですが、やわらかな日差しが注ぎ春の訪れを感じられる今日、私たちは三年間の向陵生活を終え、ついに卒業を迎えることとなりました。本日はこのような素晴らしい式を挙行して頂き、卒業生一同心から感謝申し上げます。

先日、私は進学先の入学説明会に行ってきました。皆、初対面なので教室は静かで、向陵高校に入った三年前のことを思い出しました。本当はお喋りで何でも大声で笑う私ですら静かな空気に飲まれ、自分らしさの出し方も分からずいました。しかし、毎日顔を合わせ、修学旅行で思い出を共有したこと、体育祭や球技大会でクラス全体で喜びを分かち合ったことなどが積み重なり、向陵高校は、自然と自分らしくいられる場所になりました。



そんな私の向陵生活の全てが詰まっていると言つてもいいのが文化祭です。クラスでは何を作るのか考えることから始まり、作業を皆で分担しました。イメージの共有ができるないときもあつたと思いますが、それそれが本気で作り上げたもの同士が融合することで、二組は、細部にまでこだわったクオリティーの高い最高の作品ができました。一組は、テーマに対してユーモア溢れた展示が多く、一人一人の個性が光り、見ている人を楽しませせる要素が満載でした。作業の内容は違いますが、それそれが本気で取り組むことで皆が納得できる物に仕上がるのだと思感しました。

部活動では私は軽音楽部のステージに向けて毎日練習に励みました。バンドは個人練習が上手になつても意味がありません。心を合わせる練習を本気でやるのが一つのステージを作るために必要なことだと学びました。

そして生徒会活動では四年ぶりの二日間開催かつ一般公開ができ、向陵に携わるすべての皆さん之力を借りて、ファイナーレまでたどり着くことができました。本番に向けて疲れながらも「青春」をしている皆の姿を見て、夜遅くまで役員の皆や先生方と準備をしてきて良かっただと感じました。こうして全校が本気になって作り上げたあの文化祭は今でも忘れません。

しかし、そんな文化祭でも逃げたくなったことがあります。複数を同時に考え行動することが苦手で、一つの事に集中してしまい、多方面に迷惑をかけてしまうことがあります。それでも「青春」をしていく皆の姿を見て、夜遅くまで役員の皆や先生方と準備をしてきて良かっただと感じました。こうして全校が本気になって作り上げたあの文化祭は今でも忘れないかもしれません。

文化祭の他に「本気」という言葉で思い出されることの一つに、サッカー部の全校応援があります。ピッチ上での表情は普段の姿と違い、どんな状況、相手でも逃げずに立ち向かう闘志に溢れていました。その姿に「本気」になれるということを教わりました。私たちの不慣れな応援がどれだけ力になったかは分かりませんが、それ以上に「本気」を感じさせてくれた試合でした。向陵を背負って戦つてくれてありがとうございました。そして家族は、クタクタで帰ってきた私をいつも温かい気持ちにさせてくれました。その支えが、私の折れかけた心をまた「本気」にさせました。

けれども、結果的に私は乗り越えることができました。それは一番苦しかったときに「本気なら逃げない」という気持ちにさせてくれた存在がいたからです。それはここにいる友だちや後輩、先生方、そして家族です。友だちや後輩には何度も笑顔にさせてもらい、先生には頭の整理をしてもらいました。そして家族は、クタクタで、自分一人が頑張っているような錯覚と孤独感を感じることがありました。「こんなことなら逃げ出してしまう」と思い、涙することもありました。

文化祭の他に「本気」という言葉で思い出されることの一つに、サッカー部の全校応援があります。ピッチ上での表情は普段の姿と違い、どんな状況、相手でも逃げずに立ち向かう闘志に溢れていました。その姿に「本気」になるということを教わりました。私たちの不慣れな応援がどれだけ力になったかは分かりませんが、それ以上に「本気」を感じさせてくれた試合でした。向陵を背負って戦つてくれてありがとうございました。そして家族は、クタクタで私たち一人でここまで来たわけではありません。私たちに本気で向き合い、支えてくれた皆さんのおかげで、自分一人が頑張っているような錯覚と孤独感を感じることありました。私たち一人でここまで来たわけではありません。私たちに本気で向き合い、支えてくれた皆さんのおかげで、自分一人が頑張っているような錯覚と孤独感を感じることありました。私たち一人でここまで来たわけではありません。私たちに本気で向き合い、支えてくれた皆さんのおかげで、自分一人が頑張っているような錯覚と孤独感を感じることありました。

やめるわけないだろ
逃げるわけないだろ
自分じゃなきやだめだって
わかつてるんだる?
走れ

『自分じゃなきや』にんじん (fromロクデナシ) より



誇れるような学校に

三年生の先輩方で卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方との思い出を振り返ってみると、いつも私たちの背中を優しく押してくださったことに改めて気づきます。

不安でいっぱいだった一年生の春、対面式で緊張した私たちを温かく笑顔で迎えてくださいました。

つい一ヶ月前までは中学生だった私たちにとって、先輩方の姿はとても大人びて見えました。なにより向陵高校での生活を自分のものにして楽しんでいるさまが見て取れました。

間も無く迎えた部活動見学。そこで先輩方と初めてお話しする機会であり、遠く感じていた距離が縮まっていくのがとても嬉しかったのを覚えています。そのときに感じた先輩方の優しさがあったからこそ新しい環境にもすぐ慣れることができたと思います。今では、部活動が大切な居場所になっています。

私が先輩方と共に深く関わるようになったのは、生徒会活動でした。生徒会役員の先輩方は、全員がどんなときでも責任を持ち、しっかりと自分の仕事をこなし、学校をどんどん盛り上げていこうとする姿は、私たち後輩役員が学ぶべき姿の一つでした。先輩方が引退したあと新役員で新体制のもと、さらに発展できるよう努力中です。学年を超えて、性別を超えてより楽しくが活動できる組織にしていきます。

ここで私の周りにいる部活動の部員からの先輩方への想いを紹介いたします。

「朝早く起きて、筋トレや自主練をしてから練習に向かう意識の高さや、行事を率先して盛り上げていた姿は見習わなければいけないと尊敬した。」

「演奏前の円陣の掛け声は、自分たちがそれをできるか不安になるくらい格好良かった。」「演じてくれるだけで場の空気が和み、ミスをしても大丈夫と言つてくれて、頼りになる存在だった。」「普ライベートのこともよく話して、先輩というより友だちに近い存在でもあった。」「とにかく優しくて、いっぱい話しかけてくれたり、校内でも会った時も手を振ってくれたりした。」「一緒にいて楽しかった。イラストも上手だが、ユーモアがあり、もっと一緒にいたい。卒業するものがさみしい。」

皆と一緒に先輩方から刺激を受け、この別れから次を担う自覚が芽生えているようです。

私たちが入学した年からコロナ前の行事運営になりました。

体育祭では、久しぶりにいろいろな規制がなくなり、先輩方の盛り上がりを見て、今まで我慢してきた思いがとても伝わってきました。そして、二年連続その年の三年生が優勝し、先輩方の迫力にはかないませんでした。

文化祭では、進路活動で忙しいにも関わらず全員が協力して準備をし、クラスそれぞれの個性が溢れる展示とステージ発表を作り上げていました。先輩方のユニークなアイディアとクラスの団結力にはまたもや、かないませんでした。なにより何事にも全力で取り組む姿勢が印象に残りました。

進路活動では、自分の夢に向かい自分自身と闘ついていたことでしょう。「本気」とは、自分に厳しく強い意志を持つことが大切であると後の活動報告で教えてくださいました。

別れの時間が近づいてきました。先輩方の明るさや優しさにはいつも私たちの助けになります。とても心強かったです。頼れる先輩方がいなくなるの寂しく思う気持ちもあります。私たちはこれからも先輩方の明るさ、優しさを引き継いで、誇れるような活気ある学校にていきます。

卒業生の皆様のこれからのご活躍をお祈りしています。

令和6年3月1日

在校生代表 佐藤 翔聖（第一中学校出身）



クリーンアップ

本校が全校で取り組んでいる学校周辺・田舎地区的クリーンアップ作戦。3月12日（火）が今年度最後の活動となつた。今回の担当は、中央、生活向上委員で、学校周辺の除雪作業を行つた。歩道を歩きやすく広げるグループと、積み上げられた雪で視界不良となつている交差点付近の歩道の除雪を行うグループとに分かれ活動した。2月末に降った雪もやつと柔らかく、片付けやすくなつてはきたが、それでも除雪は重労働。時々休みながら作業をしていると、通り人から「お疲れ様」「ありがとうございます」と声を掛けられた生徒たちは、やりがいを感じているようだつた。

華道部の作品が玄関に彩りを添えている。花材は谷ワタリという大きな葉とカーネーション、スター・チス。名脇役としても知られるスター・チスの花言葉は、丈夫でドライフラワーにしても美しさを保つことから「変わらぬ心」や「変わらぬ思い」。また、英語の花言葉は、「success（成功）」ということで贈り物にも喜ばれる花の一つ。この春、誰かに贈つてみては。

春の杉

成田 葉純（2年・東中学校出身）

校内表彰

◆成田 葉純（2年・東中学校出身）

◆精勤賞◆	
1年	梅内 大翔（名川中学校出身） 関畠 朱雀（白山台中学校出身）
2年	前田 虎次朗（湊中学校出身） 巻 勇樹（第一中学校出身） 富田 優輝（飯能市立原市場中学校出身）
3年	板橋 寿弥（下長中学校出身） 岡本 宏哉（種市町立種市中学校出身） 角地山 葵羅（階上中学校出身）
4年	高橋 流那（根城中学校出身） 石井 潤太（根城中学校出身） 小笠原 紗織（江陽中学校出身） 柄本 百絵（大館中学校出身） 松川 将也（第三中学校出身） 渡邊 一輝（白山台中学校出身） 佐々木 一輝（横浜市立中山中学校出身） 田端 聖空（千葉市立千城台西中学校出身） 中村 楓華（三条中学校出身） 山田 阳征（白山台中学校出身） 松倉 梨（第一中学校出身） 梅木 岬（根城中学校出身） （明治中学校出身）

ファイールドワーク

3月12日（火）、1年生が生物基礎の授業でフィールドワークを行い、田舎周辺の生態系を調べた。生徒たちは、近くのローソンまで歩き、写真を撮つたりスケッチをしたりしながら何種類の植物があるか観察した。栗村漣さん（1年・東中学校出身）は、「木が密集しているところにいろいろな植物があり、種類が豊富だと感じた。木の傍は多くの植物が育ちやすい環境がそろついているのかなと思つた」と感想を述べた。